



シカと共に創りあげる未来の森

～安心して生活できる住処を～

岡本都瑚・堀田梨乃・狩野優輔・山崎智恵子

1]テーマを選んだ理由

視察先の里山で見たシカによる被害



約2m

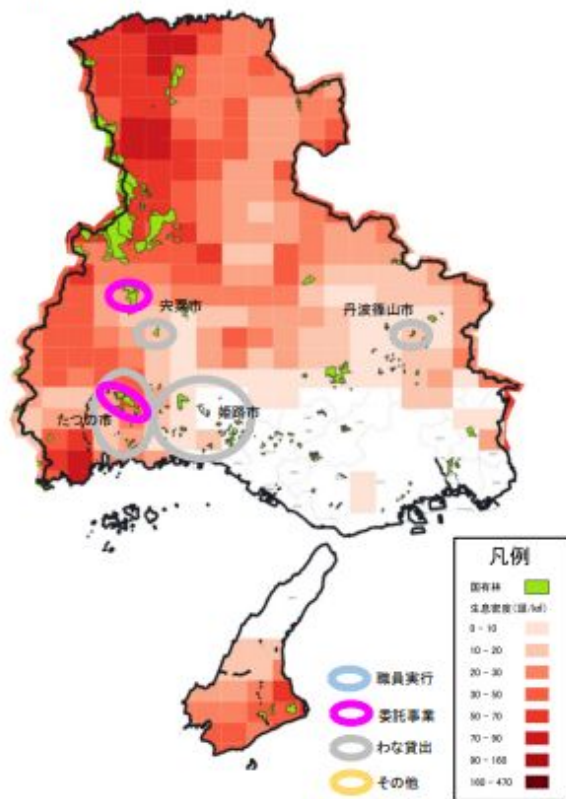
クヌギの新芽が
シカに食べられ
てしまう

《発生する問題》

- 枝を切る位置を上げなければならない
- 周期が変わってしまう
- シカ対策に高い費用がかかる

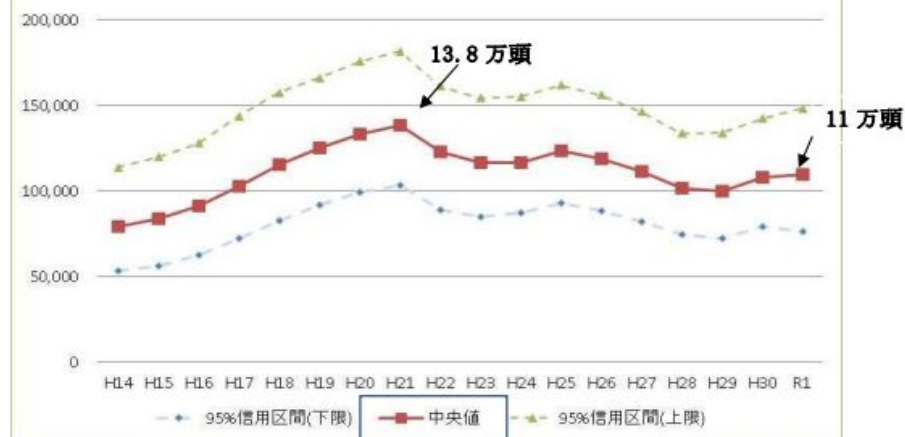
2 シカ被害の現状

シカ密度分布図



【出典】
ニホンシカ密度分布図(環境省:2022)をもとに近畿中国森林管理局作成
環境省HP:「本州以南におけるニホンシカの密度分布図(令和4年度当初)の作成について」
URL: https://www.env.go.jp/press/press_02936.html

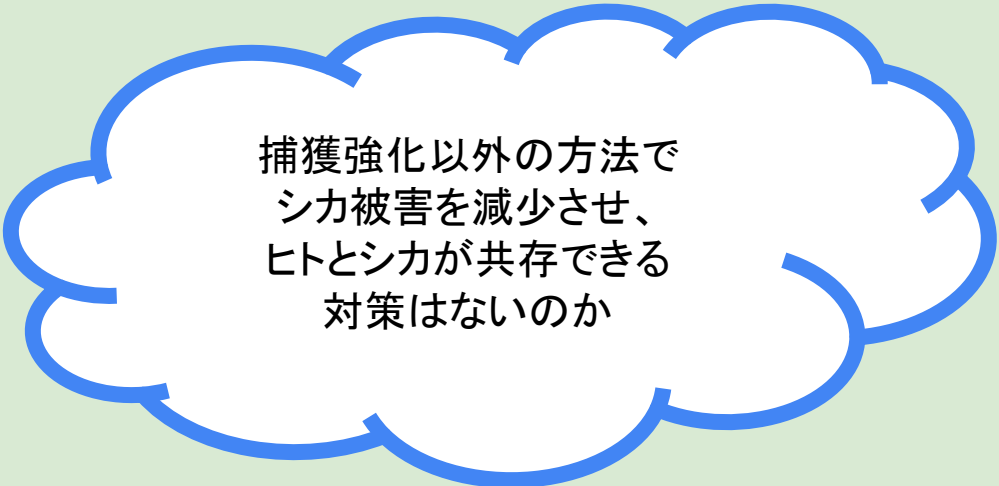
シカ推定生息数(捕獲後・全県)



(注)中央値は、あくまでも統計処理上の数値

獣種	被害	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
イノシシ	農業被害	182,903	181,862	218,035	155,496	101,215
シカ	農業被害	118,802	129,262	143,452	118,091	114,013
	林業被害	35,744	20,368	60,354	39,076	53,017

2 シカ被害の現状



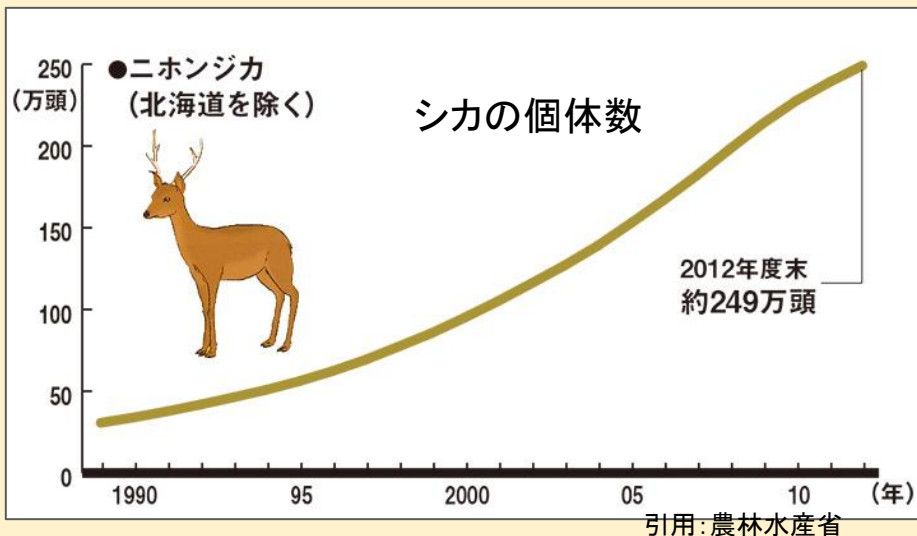
捕獲強化以外の方法で
シカ被害を減少させ、
ヒトとシカが共存できる
対策はないのか

3 私たちが目指す共存のあり方

《シカと私たち人間との共存》

シカが人間にとって大切な木の繁殖の妨げにならない⇒シカの個体数の適正管理

シカの生存する場所との隔たりを作る・被害件数の減少⇒シカが生きる環境改善



(現状)

主な政策: ワイルドライフ・マネジメント

野生動物の被害、個体数、生息地などの
情報を科学的に調査し、管理。
共存と被害防止を図る。

4 現在行われている取り組み

避妊手術プログラム

ニューヨーク市 🗽

オジロジカの個体数 ➡ 41%減少

2017年
2053頭



2024年
1273頭



オジロジカ 引用:iStock

メリット

- ・動物福祉に配慮した管理
- ・森林の過剰食害の抑制 ➡ 植生回復
- ・衝突事故 ➡ 5年間で約44%減少

デメリット

- ・一頭あたりの費用 ➡ 約26万円弱と高額
- ・定住しているわけではない
- ➡ 年ごとの継続的な介入が必要

兵庫県以外での具体例

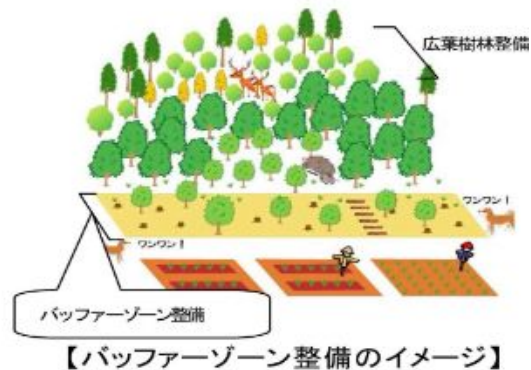
長野県箕輪町

対照：熊

- ・三つの区域分け
- ・藪の刈払い



- 農作物被害数
19万 ➡ 1.5万
- 目撃件数
19件 ➡ 9件



兵庫県で現在行われている取り組み

- ・捕獲にかかる担い手確保・育成と体制整備
- ・生息状況調査を行う
- ・防護柵の設置
- ・「野生動物共生林整備」や「針葉樹林と広葉樹林の混交整備」

など多数

5]提案

①シカと植物の棲み分け

シカとヒトが共生し、森林を守る植生デザインの提案

森の奥 → → → → → → → → → → → → → → → 森の麓

森を強くする
回復植生

シカが避ける
護衛植生

シカが好む
誘導植生

人の活動地域

例:クヌギ、アカマツ、 リョウ
ブ、アブラチャン

例:アセビ、ヒイラギ、
ツルキキョウ、ノイバラ

例:シロツメクサ、
ゼンマイ



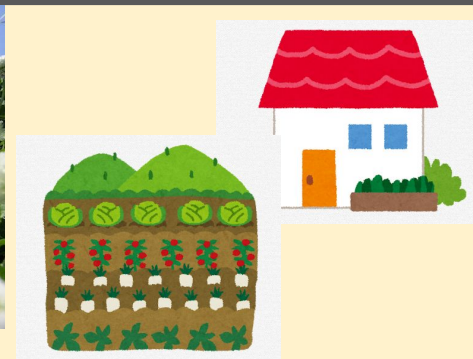
写真:クヌギ 引用:庭木図鑑
植木ペディア



写真:アセビ
引用:エバーグリーン



写真:シロツメクサ
引用:マイナビ農業



引用:いらすとや

5 提案

②個体数の管理

①養鹿場の設置

- 養鹿場などで頭数が増えすぎないように管理する
- 場内で育った鹿の個体を有効に活用
- 場内の個体からシカの生態を研究



②管理地域の指定

欧米で行われている猟区制度や管理ユニットのように、管理地域における厳格な頭数管理を行う。



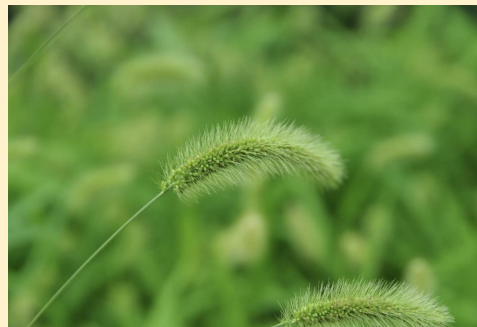
③動物園との協力

動物園の狼の尿を、イノシシや鹿の忌避剤として活用する。



5]提案 ③シカの有効活用(産業動物・学校でジビエ料理を提供)

・産業動物



エノコログサ 引用Photock

雑草除去



メヒシバ 引用:Photo AC

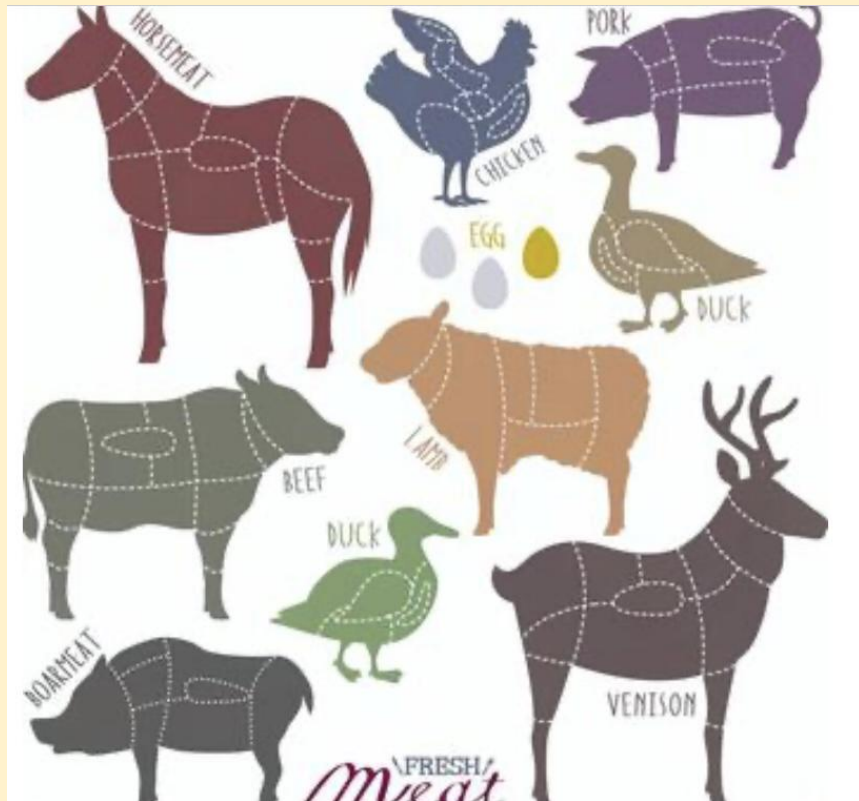
好みの草^{*}



シカ 引用:PhotoAC

^{*} 柔らかい・栄養価が高い(採食対象)

・学校でジビエ料理を提供する



食用肉 引用:イラストAC



シカ肉 引用:Adobe Stock



給食 引用:ジャパクリップ

6 メリット

① 森林の植生が守られる

荒れてしまった森林を再生することができる
シカが食べ物に困ることがない

② シカをその地域における資源として有効活用できる

シカの頭数が増えすぎない

制度の構築により、優秀な人材の確保と自然環境、ひいてはシカやクマ、イノシシ 等の害獣との共生をみこめる

③ 人々にシカを知って興味を持ってもらうことができればシカの管理者が増える きっかけになる

シカに雑草問題がある地域に来て除草してもらう↔シカの採食対象が豊富
(奈良公園はこの仕組みをすでに取り入れている)

➡ 人々がシカを害獣以外の見方をすることができる

7 懸念点・問題点

①・森林の維持費・管理費が高い点。

- ・デザイン通りの植生を作るにはかなりの年数がかかる点。
- ・誘導植生を用意することで、必ずしもシカが人間の生活地域に降りてこなかったり、回復植生のゾーンまで登ったりしないという保証がない点。
- また、その検証は行いづらいという点。

②・狼の尿を忌避剤とするにも、量の確保が難しい可能性が高い

- ・正確に頭数を計測することは不可能に近い
- ・初期費用が高い
- ・人件費がかかる
- ・飼育環境を整えるのにかなりの労力を使う

③・シカを実施地域まで運ばなくてははいけない

→ 移動費がかかる

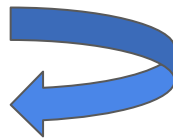
- ・衛生管理・処理・調理が難しい
- ・そもそもシカが高い

背ロース・ヒレ	1kg	3,850円
モモ	1kg	2,750円
首・バラ・肩	1kg	2,200円

8 今後の展望

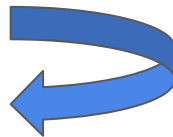
(1) 植生デザインや、養鹿場の設置には年数が必要になる

- ジビエ料理の日常化など、すぐに行える対策を行い、時間のかかる対策も並行して行う



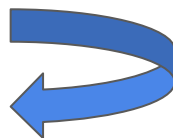
(2) 全ての提案に費用が障壁になっている

- 政策などを通じて費用を確保する



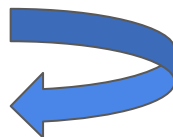
(3) 森林の管理ができる人材、シカ捕獲を担う人材、ジビエ肉の処理・加工ができる人材が不足している

- 自治体が積極的に人材育成を促進する



(4) 今回考えた提案に対して住民から同意を得る

- 共生によるメリットを周知してもらう機会を作る



9 参考文献

- ・「兵庫県／野生鳥獣の農林業被害額状況について（令和5年度実績）」[兵庫県／野生鳥獣の農林業被害額状況について（令和5年度実績）](#)
- ・「林野庁ホームページ／シカ密度分布図 兵庫森林管理署」[シカ密度分布図 兵庫森林管理署](#)
- ・「日本学術会議 欧米と日本の野生動物管理法制・しくみと比較」[欧米と日本の野生動物管理法制・しくみの比較](#) 参照日:2025年12月13日
- ・「兵庫県／第13次鳥獣保護管理事業計画及び第二種特定鳥獣管理計画の策定について／第3期ニホンジカ管理計画」[第3期ニホンジカ管理計画](#)
- ・[長野日報 YAHOO! JAPAN ツキノワグマゾーニング管理導入の長野県箕輪町 目撃件数が大幅減少](#)
- ・THE WORLD SOCIETY P4シカの避妊プログラム
- ・P4 鹿のブランド化 丹波新聞 <https://tanba.jp>
- ・<https://wildlife.org/in-nyc-officials-wrestle-with-controlling-deer-populations/>.
- ・P12シカの部位ごとの価格表 丹波篠山ジビエ専門店山大 [丹波篠山ジビエ専門店山大](#)

使用画像

[ハンノキ - 植物図鑑 - エバーグリーン](#)

[「アセビ」冬枯れに唯一目立つ「アセビ」 | ツツジ科アセビ属 | エバーグリーン](#)


[特集 野生鳥獣と向き合う\(2\)](#)

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk21/images/02-9.jpg>

「国立大学法人 東京農工大学 野生動物管理教育研究センター」[当センターについて | 国立大学法人東京農工大学野生動物管理教育研究センター](#)

[北海道型短期養鹿 当センターについて | 国立大学法人東京農工大学野生動物管理教育研究センター](#)

http://forest.boy.jp/wp-content/uploads/2022/06/s-SCN_0025-2.jpg



ご清聴
ありがとう
ございました